

『志』を高く！～炎える中大生～ 第2回

開発途上国に給食費を送る

『Table For Two-Chuo』

メニュー食1食とると、20円が学校給食に寄付

5月からCスクエアのカフェで初めて導入、実施

TFT (Table For Two)メニューを1食摂ると、そこから20円が開発途上国の子供たちの給食費として送られます。こんな国際支援システムが多摩キャンパスCスクエアのカフェに導入され、5月10日からスタートした。

学食を通して社会貢献

このシステムの導入を年月をかけて関係者に働きかけ、理解を得て、実施にこぎつけたのは、商学部4年、川口琴美さん（神奈川県立小田原高校出身）が代表をつとめる「Table For Two-Chuo」のメンバー約20人。川口さんは「学食利用者2万人の胃袋でできることがある」を合言葉

に、学生が国際的視野を広げる活動につながるかと考えて、始めました」と語る。

4年間の学生生活のうちにしかできないことを何かやりたい、と考えていた川口さんは、豊富なメニューで充実した中大の学食を活かして、世界に視野を広げた募金活動などができるかと考えていた。そこへ、ゼミでの出会いを通して知った、ユ

ニセフや社会事業について深い知識を持った大手広告代理店の方から「学食を通して社会貢献できる」というアドバイスももらった。それが「TFT」だった。

TFTは、2007年に日本ではじまった活動で、世界で暮らす60億人のうち、10億人が飢餓、10億人が肥満などの生活習慣病に苦しんでいることを考え、飢餓と肥満の解消に

同時に取り組もうと立ち上がった。具体的には、TFTに参加する食堂、レストランなどでTFTメニューの食事を1食とると、開発途上国で飢餓に苦しむ子供たちに20円を寄付するというシステムだ。20円は開発途上国の学校給食1食分にあたる。

導入、実施までに1年半

川口さんは、ゼミの友達にTFT活動への参加を呼びかけ、最終的に5人で、実施に向けて活動をはじめた。しかし、TFT導入までには、1年半の月日を要した。

2009年12月に、学食を運営する「中央大学生協」に、TFT導入について相談。趣旨を説明し、あわせて3回相談したが、募金活動への参加は難しいということで了解を得ることができなかった。そこで、メンバーらは、中大生の意見に耳を傾けることにした。

2010年4月に、Cスクエアで学生アンケートを実施。その結果、



「リーフカフェ」の食券販売機

小額募金の意欲がある学生が利用者の8割を占めた。また、学生の味の好みや、野菜中心のメニューが好まれていることが分かった。

一方、メンバーらは、いち早くTFTを導入している他大学を訪ね、フィールドワークを行った。実際に食堂で食べてみたり、担当者に導入の経緯を聞いたりした。

夏休みが明けた2010年9月、今度はCスクエアの「リーフカフェ」を訪ね、4月に行った学生アンケート結果を示して、TFT

導入について相談した。「リーフカフェ」の責任者からは、「成功するビジョンは?」「売れなかった場合の責任は?」などと厳しい質問が相次いだ。

その相談を通し、川口さんは「リーフカフェとのお話は、社会の中で企業と関わることなので、責任ある考え方、姿勢が必要なのだ」と改めて強く感じました」と言う。それ以降、カフェからの質問には、「その10倍の細かさで回答する気持ち」で連絡を取り、信頼関係を築くことに努め

た。

週1回で、いずれも完売の人気

9月下旬、リーフカフェからTFT導入の了解を得ることができた。早速、「TFTのCスク導入」を告知するため、10月の白門祭に出店。試しに販売した350円の豆乳キムチスープが、リピーター続出の大人

気商品になり、2020円の寄付が集まった。TFTが現実になった初めの一步であった。

5月10日から正式にスタートしたCスクエア「リーフカフェ」でのTFTメニューは、週1回実施。これまで、いずれも完売が続く人気で、第4回までに計6000円の寄付が集まった。「利用学生が多いため、寄付も他大学に比べ



メンバーが作成したTFTを紹介する看板

多額」という。集まった寄付金は、アフリカのウガンダ共和国、ルワンダ共和国、マラウイ共和国の子供たちの給食費に当てられることになっている。

「メニューは管理栄養士さんが考えますが、私達からもアイデアを出しています。いまはカフェとの信頼関係を深



TFTのメンバー。中列の右から二人目が代表の川口さん



TFT 特別メニュー

め、基盤を完成させることが優先です。軌道に乗ったら週2回導入したいですね」と川口さん。

TFTについて、広く学生に知ってもらおうのも課題のひとつで、「ゼミで勉強しているマーケティングや広告が得意という強みを活かして、広報で特徴をつけよう」と、メンバーは注目を集める広告づくりに知恵を絞っている。また毎回、学生アンケートを行って、学生の生の声が反映されるTFTを目指す考えだ。

川口さんは「TFTの活動を通して

て、社会貢献に興味を持っている学生が多いことを知りました。これからも学生の意見を取り入れながら、一緒にTFTを運営していけたらと思っています」と話す。

TFTの学生団体で他大と交流

TFTには、学生が主体となっていて集まる「TFT UA (university association)」という団体があり、現在、約60大学、700人の学生が参加している。「TFT-Chuo」もこの団体に参加し、月1回のミーティングを通して、他大学との交流を深めている。

「やりたいと思った人が集まる集団ですね。『やらないと』ではなく、『やりたい』という気持ちで私たちが行動しています」と川口さん。自分たちで広く世界と関わるきっかけをつくり、多くの学生に「気持ち」を与える「TFT-Chuo」の活動は、今後さらに広がっていくに違いない。

(学生記者 加藤静香 文学部2年)